

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ  
(2018年9月7日開示)

## 説明資料

2018年9月



# 目次

特別損失の計上及び業績予想の修正に関して 3頁

業績予想の修正<連結> 4頁

業績予想の修正<セブン銀行> 5頁

業績予想の修正<FCTI> 6頁

株主還元（配当） 7頁

今後の海外事業の施策について 8頁

ご参考（減損損失の影響） 9-10頁

本資料には、株式会社セブン銀行、及びその連結子会社の業績に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、具体的な歴史的事実を除き、本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を置いています。これらの記述及び前提（仮定）は主観的なものであり、かつ、様々なリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想等とは異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、システム障害、災害、犯罪、その他ATMプラットフォーム事業、決済口座事業及び海外事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社、及びその子会社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。

## 1, 【特別損失の計上】 時期：2019年3月期 第2四半期決算

計上金額<sup>\*1</sup> 連結：約145億円  
 単体：約218億円（株式評価損）<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>:監査法人による監査中であり、見込値になります。

<sup>\*2</sup>:関係会社株式評価損につきましては、連結決算上消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

(単位：億円)

	合計	FCTI	ATMi
連結	約 <b>145</b>	144	1
単体	約 <b>218</b>	214	4

- ✓ 海外事業（北米FCTI社・インドネシアATMi社）の推進過程で発生した損失
- ✓ 主にFCTI社株式取得時ののれん・無形資産

## 2, 【2019年3月期 業績予想の修正】

- ✓ 上記特別損失（のれん等の減損損失）の発生
- ✓ 海外事業の収益化の遅れを勘案

## 3, 【配当】 当初計画より変更なし（1株当たり年間10円）

# 業績予想の修正（連結）

（単位：億円）

	17年度	18年度 <b>当初</b> 計画（2018年5月）				18年度 <b>修正</b> 計画（2018年9月）					
		通期		上期		通期			上期		
			前年差異		前年差異		当初計画 差異	前年差異		当初計画 差異	前年差異
経常収益	1,276	1,467	191	726	104	<b>1,472</b>	<b>5</b>	<b>196</b>	<b>730</b>	<b>4</b>	<b>108</b>
経常費用	893	1,069	176	520	97	<b>1,073</b>	<b>4</b>	<b>180</b>	<b>527</b>	<b>7</b>	<b>104</b>
経常利益	383	398	15	206	8	<b>399</b>	<b>1</b>	<b>16</b>	<b>203</b>	<b>△3</b>	<b>5</b>
特別損失	1	1	0	0	0	<b>146</b>	<b>145</b>	<b>145</b>	<b>146</b>	<b>146</b>	<b>146</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	253	268	15	138	2	<b>128</b>	<b>△140</b>	<b>△125</b>	<b>△5</b>	<b>△143</b>	<b>△141</b>

注1) 本資料における計数は全て表示単位未満切捨て

注2) 本資料における前年差異は全て表示単位で比較

注3) 連結損益の為替レート

: 1米ドル

2017年度実績 = 112.16円、2018年度当初計画 = 110.00円、2018年度上期修正計画 = 108.67円、2018年通期修正計画 = 110.00円

: 100インドネシアルピア

2017年度実績 = 0.838円、2018年度当初計画 = 0.900円、2018年度上期修正計画 = 0.790円、2018年度通期計画 = 0.900円

# 業績予想の修正（セブン銀行）

（単位：億円）

	17年度	18年度当初計画（2018年5月）				18年度修正計画（2018年9月）					
		通期		上期		通期			上期		
			前年差異		前年差異		当初計画差異	前年差異		当初計画差異	前年差異
経常収益	1,166	1,196	30	599	18	<b>1,196</b>	<b>0</b>	<b>30</b>	<b>599</b>	<b>0</b>	<b>18</b>
経常費用	743	771	28	375	9	<b>771</b>	<b>0</b>	<b>28</b>	<b>375</b>	<b>0</b>	<b>9</b>
経常利益	422	425	3	224	9	<b>425</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>224</b>	<b>0</b>	<b>9</b>
特別損失	1	1	0	0	0	<b>219</b>	<b>218</b>	<b>218</b>	<b>219</b>	<b>219</b>	<b>219</b>
当期純利益	291	294	3	155	7	<b>140</b>	<b>△154</b>	<b>△151</b>	<b>1</b>	<b>△154</b>	<b>△147</b>

注）特別損失に含まれる関係会社株式評価損（218億円）の算定為替レート  
 ： 1米ドル = 110.00円  
 ： 100インドネシアルピア = 0.900円

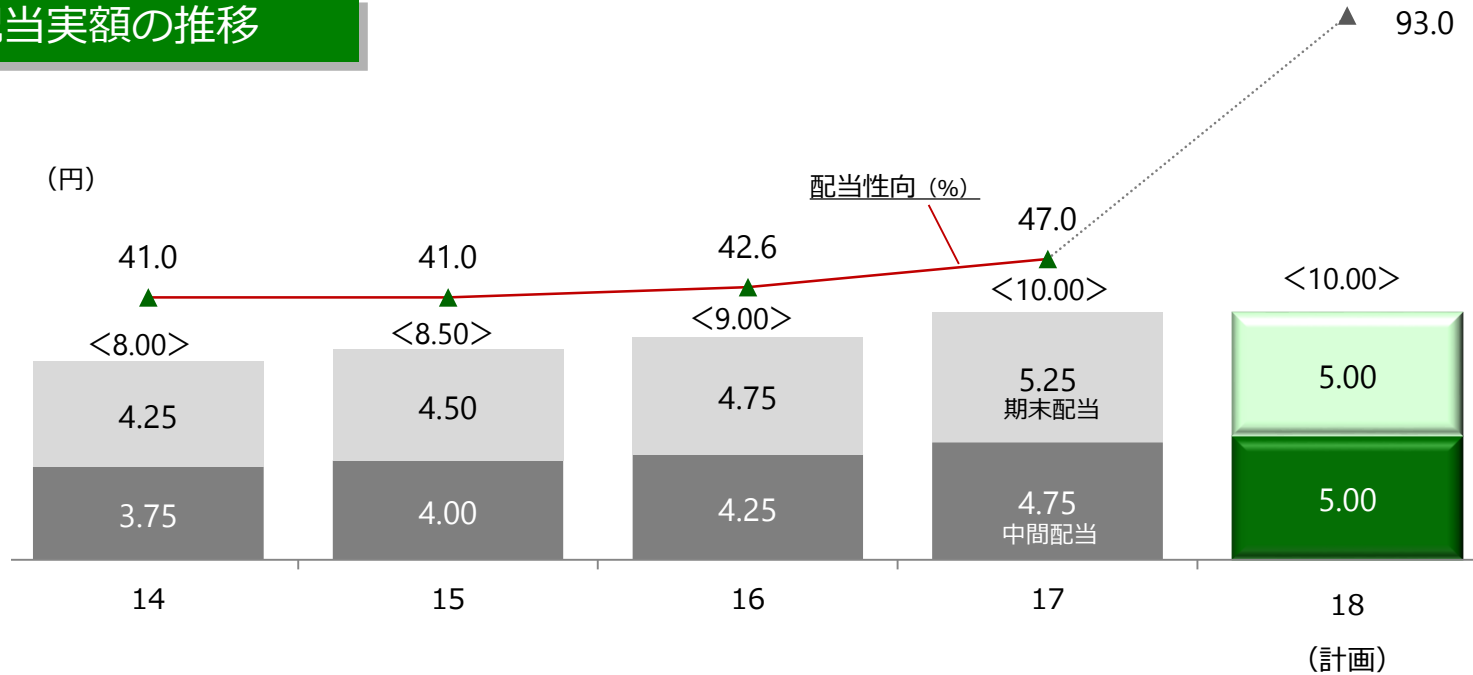
# 業績予想の修正（FCTI）

（単位：百万\$）

	17年度	18年度 <b>当初</b> 計画（2018年5月）					18年度 <b>修正</b> 計画（2018年9月）					
		通期		上期		通期	当初計画 差異		上期	当初計画 差異		
			前年差異		前年差異					前年差異		前年差異
経常収益	96.5	239.1	142.6	113.8	77.9	<b>244.3</b>	<b>5.2</b>	<b>147.8</b>	<b>119.1</b>	<b>5.3</b>	<b>83.2</b>	
経常費用	120.4	250.0	129.6	122.7	79.2	<b>258.4</b>	<b>8.4</b>	<b>138.0</b>	<b>131.4</b>	<b>8.7</b>	<b>87.9</b>	
経常利益	△23.9	△10.9	13.0	△8.9	△1.3	△ <b>14.0</b>	△ <b>3.1</b>	<b>9.9</b>	△ <b>12.3</b>	△ <b>3.4</b>	△ <b>4.7</b>	
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>90.0</b>	<b>90.0</b>	<b>90.0</b>	<b>90.0</b>	<b>90.0</b>	<b>90.0</b>	
当期純利益	△27.4	△10.9	16.5	△8.9	△4.0	△ <b>104.0</b>	△ <b>93.1</b>	△ <b>76.6</b>	△ <b>102.3</b>	△ <b>93.4</b>	△ <b>97.4</b>	

# 株主還元（配当）

## 配当実額の推移

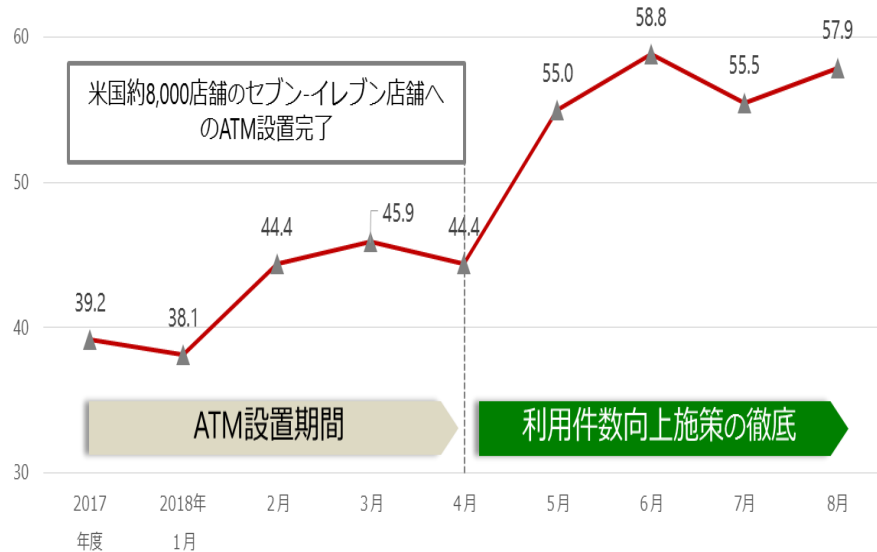


- ✓ 今回公表した減損損失は臨時かつ非現金支出費用
- ✓ 業績及び資金の状況及び財務体質の健全性などを総合的に勘案

2018年5月11日に公表した配当計画に変更なし

## 1 FCTI (アメリカ)

米国セブンイレブン設置ATMの平均利用件数推移



ATM入替設置完了以降、利用件数は改善傾向  
収益は計画に沿って堅調に上昇

## 2 ATMi (インドネシア) ・事業計画の見直し

### これまでの成果









- ✓ 米国セブン-イレブン店舗へのATM設置完了
- ✓ ATM利用件数は順調に増加

### これからの施策

- 【セブン-イレブン】
  - ✓ SunocoへのATM設置
    - ・下期から設置開始で一時的なコスト発生
    - ・来期以降の増収要素
  - ✓ 運用コスト（保守費用等）の見直し
    - ・設置開始時からの運用課題の改善
- 【セブン-イレブン外】
  - ✓ 設置先との契約条件の見直し
    - ・低採算契約締結先との交渉開始
  - ✓ 低採算ATM（設置先保有ATM）の早期整理

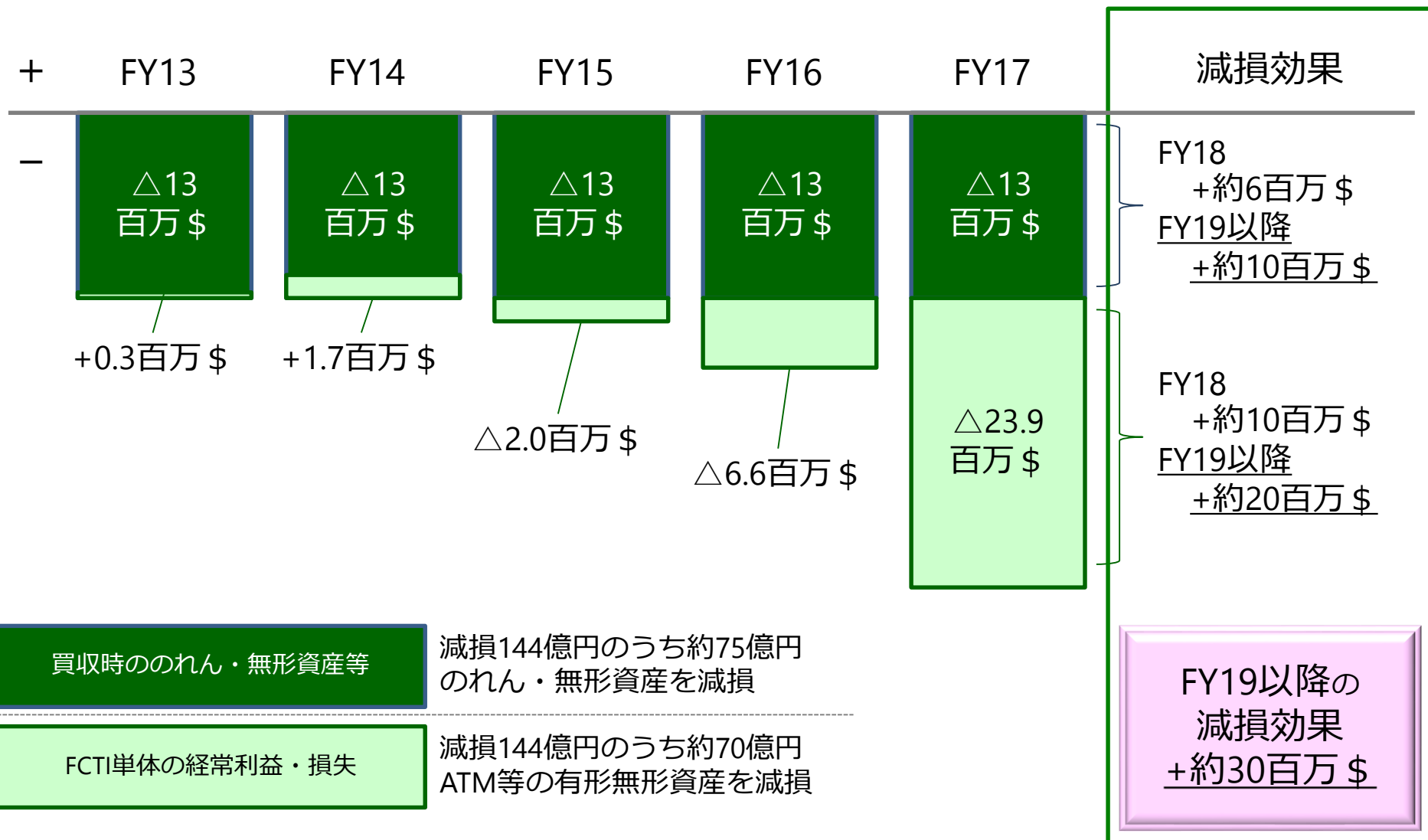


## 〈ご参考〉 減損損失による影響 ①

項目	影響		備考
	当年度	次年度以降	
①FCTI社への利益影響			【当年度】減価償却負担▲約10百万\$の経常利益プラス影響 【次年度以降】減価償却負担▲約20百万\$の経常利益プラス影響
②連結調整時の利益影響			【当年度】特別損失（のれん等の減損損失）により当期純利益▲約145億円のマイナス影響 【次年度以降】のれん等償却負担がなくなるため、経常利益で約10億円のプラス影響
①+②連結決算への影響	減損での利益回復効果 【当年度】FCTI単体+10百万\$ + 連結調整時+6百万\$ = +約17億円 【次年度以降】FCTI単体+20百万\$ + 連結調整時+10百万\$ = +約32億円		: 1米ドル= 110.00円
ROE (株主資本利益率)			【当年度】一過性の減益により、ROEはマイナス影響 【次年度以降】当期利益が増加することにより、ROEにプラスに影響
EPS (一株当たり利益)			【当年度】一過性の減益により、EPSは低下 【次年度以降】当期利益が増加することにより、EPSは向上

注) 影響欄の↑↓の表記は、あくまでものれん等の減損損失を「行った場合」と「行わなかった場合」との比較であり、その他の要因は一定と仮定して記載しております。

FCTI関連の連結決算への影響



あくまでものれん等の減損損失を「行った場合」と「行わなかった場合」との比較であり、その他の要因は一定として記載